

令和7年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立大枝中学校



4月17日(理科・質問紙は4月15日)に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語、数学、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語科より

本校の平均正答率は、全国平均を2.7ポイント、京都府平均を2.0ポイント上回りました。特に「思考力・判断力・表現力等」の観点では、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」のすべての領域において、全国および京都府の平均正答率を上回る結果となりました。さらに、問題形式別に見ても、「選択式」「短答式」「記述式」のいずれにおいても高い正答率を示しており、形式にかかわらず課題に積極的に取り組む姿勢がうかがえます。

一方で、「知識及び技能」の観点では、全国平均を7.5ポイント、京都府平均を6.0ポイント下回っており、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の定着に課題があることが明らかになりました。今回出題された同音異義語の使い分けや語句の正確な理解については、日頃からの語句調べの積み重ねが重要です。

今後の授業では、語句や漢字に出会った際に、生徒自身が辞書やタブレットを活用して意味を調べる活動を取り入れていきます。そして、調べた語句はノートなどに記録し、定期的に振り返る時間を設けることで、語彙の定着を図ります。また、新しい単元に入る前には、語句や漢字の使い方に関する小テストを実施し、漢字の小テストでは単に漢字を書かせるだけでなく、例文の中に語句として出題し、文脈に即して正しく使えるかを確認します。これにより、語句や漢字の意味理解と運用力の両面を育てることを目指します。

理科より

理科における本校の平均正答率は、京都府、全国ともにほぼ同率(0.1%前後内)という結果となった。

しかしながら、元素記号を記入(塩素の元素記号)する問いに関しては、全国の京都府の正答率から6.6%、全国の正答率からは、11.3%低く、基礎的な知識の定着に課題が見られた。その部分は、日々の授業からも見えたことから、ICT等を活用しながら、元素記号の復習に取り組みつつ、3年生のイオンの授業に取り組み、知識の定着をはかっているところである。

本校が目指す生徒像の1つである、「知識を正しく習得し、自分の考えを発信できる生徒」の育成を目指し、思考・判断・表現の能力を高められる授業づくりを進めていくとともに、その能力を高める基礎となる知識・技能の定着の必要性を生徒が自ら感じることができ、進んで学習していく授業、環境を整えていきたいと考えます。

数学科より

全体の正答率は全国をおよそ1ポイント上回りました。半数以上の問題を正解できた人の割合も全国よりは多い結果となっています。

領域別においては、「数と式」の領域にやや弱さが見られます。他の「図形」「関数」「データの活用」については全国よりも良好な結果が出ていて、これはこの学年の特有の傾向であると考えられます。今回の調査で、「数と式」の領域では、定義に沿って適切なものを選んだり、文字式を使って倍数の性質を説明する問題には弱点が見られました。一方、他の3領域内で、具体的な確率の説明問題や、関数領域での理由を選択する問題は良好であるため、過程の複雑な問題を最初からあきらめてしまうようなことはないとも考えられます。

今回の調査で問われた「文字式で表現されたものをどう理解し、どのように処理するか」のような概念的な力を養うことが今後の課題といえます。具体的な形がなかなか見えにくい概念的なものにも関心が持てるように、さまざまな類似の事象に触れる機会を増やしていきたいと考えます。

生徒質問紙より

昨年度より学力向上の取組として「効果的なICTの活用の研究」を進めていますが、学校の授業時間でのPC・タブレット等の使用する機会や文章の作成、情報整理、プレゼンテーション等もできる(どちらかも含む)と答えた生徒は、全国よりも高く、場面に応じて使いこなせている結果になっています。

しかしながら、学校の授業時間以外で勉強のために使うこと(平日)については、70%が30分より少ない状況です。本校の特徴として通塾率が非常に高く、家庭での学習時間が確保しにくい状況もあるかもしれません。

総合的な学習の時間での「自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表する等の学習活動」では、当てはまる(どちらかも含む)は全国よりも約15ポイント高く、探究活動を前向きに取り組んでいる様子が見られます。これからの社会は、その場に応じた対応や自ら考え、周りと協働しながら取り組むことも多くなります。主体的な学びのためにも、様々な意見を聞きながら考えを深めていってほしいと思います。

全国学力調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。引き続き、ご家庭での温かい言葉かけ、また子供たちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。